

お問い合わせ先



▲新高山城跡の石垣の一部

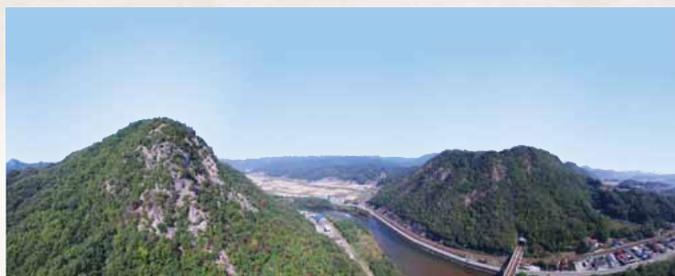


▲新高山城跡の井戸

船の行き来を確認していたとも考えられます。永祿4(15)年、隆景は正平の娘と結婚し、沼田小早川家の跡を継ぎました。こうして、竹原・沼田小早川家は統一されました。



文化課
☎0848-649234



▲(左側から)新高山城跡と高山城跡

戦国屈指の知将

小早川隆景

ものがたり ②



三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

沼田小早川家の相続

天文12(1543)年、隆景の父・毛利元就は山口を拠点とする大内義隆に付いて、大内氏と争っていた尼子晴久の月山富田城(現在の安来市)を攻めました。この戦いで毛利氏と同じく大内氏に付いていた沼田小早川家の当主・正平が戦死しました。正平が亡くなった後、その長男・又鶴丸が沼田小早川家の跡

を継ぎました。しかし、又鶴丸は幼いときにかかった病気が原因で目が不自由だったため、沼田小早川家は将来に不安を募らせ、分家である竹原小早川家当主・隆景を養子として望みました。これは隆景の実父が中国地方で勢力を拡大していた毛利元就であったこと、分家の竹原小早川家と合体して小早川家を補強しようとしたことなどが理由と考えられます。

新高山城に拠点を移す

隆景は天文20(1551)年、竹原小早川家の本拠である木村城を出て、沼田小早川家が本拠としていた高山城に入りました。翌年、隆景は対岸の新高山城を築き、本拠を移しました。

これには、沼田小早川家へ竹原小早川家や毛利氏の家臣を迎えること、心機一転一から出直すことなど、いろいろな要因があったと考えられます。

新高山城の縄張りには東西約400メートル、南北は約500メートル。東側と北側は沼田川の天然の堀で守られ、その中に本丸、詰の丸、釣井の段、座敷などを備えていました。本丸の先にある詰の丸からは本郷の町並みや瀬戸内海を見渡すことができました。小早川家は水軍を支配していたため、詰の丸から

61)年に、父・毛利元就と兄・隆元が来た際には座敷で能楽や連歌などを行ない、もてなしたといわれています。

新高山城跡には石垣の一部や井戸なども残っており、当時のようすをうかがうことができます。

参考文献 『三原市史 第一巻 通史編一』 昭和52年 三原市役所 編集兼発行

あ・と・が・き

春は入学、入社と新たな生活が始まる季節。私も異動で広報担当者として新たなスタートを切りました▼初めての取材に行ったときのこと。緊張で一眼レフカメラを持つ手が震えましたが、取材先の皆さんの笑顔を見ると落ち着いて写真を撮ることが出来ました▼5月はさつき祭りを始め、市内ではさまざまなイベントが催されます。イベントの魅力、参加されている市民の皆さんのようすが伝わるように取材したいと思えます

(F)

三原市の人口(3月31日現在)	
※外国人住民を含む。	
※()内は前年同月との比較。	
世帯数	44,005 世帯 (-56)
人口	96,360 人 (-1,112)
男	46,185 人 (-468)
女	50,175 人 (-644)
人口移動の詳細については	
広島県 人口移動 月報 で検索	

税などの納期 (普通徴収)	
○軽自動車税	
○県税の自動車税	
納期限	31日(水)まで
夜間収納窓口(19時まで)	
	4日を除く木曜日
航空機の騒音測定結果(3月分)(Lden)	
▶正広局(本郷町善入寺正広)	=50.4
▶本郷局(本郷町船木川西上)	=53.0